

## シンガポール共和国視察報告

大阪維新の会 大橋一隆

### 《シンガポール共和国の概要》

#### (財団法人自治体国際化協会 (CLAIR) シンガポール事務所)

CLAIRは、東京に本部を置き、ニューヨーク、ロンドン、パリ、ソウル、シドニー、北京、シンガポールに海外事務所を設置され、海外とのネットワークの充実に努めている。

シンガポール事務所は、1990年10月に設置された。

今回の視察で「財団法人自治体国際化協会 (CLAIR) シンガポール事務所」にて、概要等について説明をいただいた。



### 《シンガポール共和国の概要》

シンガポールの国土面積は、715.8 km<sup>2</sup>で、人口は、外国人 149 万人を含む、531 万人である。

国土面積は、大阪市の 3 倍強である。

民族は、中華系 74%、マレー系 13%、インド系 9%、その他である。

言語は、英語、中国語、マレー語、タミル語である。

宗教は、仏教、イスラム教、キリスト教、ヒンドゥ教である。

歴史的背景には、1819年に東インド会社のスタンフォード・ラッフルズが上陸。

1824年に英蘭条約締結。英国ジョーホルのサルタンとの取り決めにより、シンガポールの完全主権と永久領有権取得。

1867年、英国政府直轄海峡植民地となり、欧州とアジアを結ぶ中継貿易と通信の拠点として発展する。

この間の 123 年間はイギリス領土である。

1942年2月より、日本軍が3年間占領し、昭南市と改称。

1945年の終戦後には、再び英軍により軍政施行されるが、1946年には、軍政は終了し、英国直轄植民地に移行する。

1948年、第一回総選挙が行われる。

1959年6月、外交と国防を除く広範な自治権を有する自治州となる。

1963年、マラヤ、サバ、サワラクとマレーシア連邦を結成し、英国より完全に独立。

1965年8月、マレーシアから分離。大統領を元首とする共和国となり、今日に至る。

政治概要については、政体は立憲共和国。

元首はトニー・タン大統領

首相はリー・シェンロン。

行政府は、内閣（1府15省）

立法府・議員定数については、一院制、87名で議会運営が行われている。

#### 《観光政策について》

シンガポールへの来訪者数は、1965年には98,000人、1990年には約532万人、2012年には約1440万人で、右肩上がりである。

1964年にシンガポール政府観光局（S T B）が設立され、マーケティング、ビジネストラベル、政策企画、経営企画、体験観光開発、国際業務、など細かくグループ分けされ、目標値に向かって取り組まれている。

#### 目標

	2004年	2012年	2015年目標
観光収入（億S\$）	100	230	300
来訪者数（万人）	800	1,440	1,700
観光業務雇用者数	150,000	※197,000	250,000

※2011年時点

#### 重点分野

- ①アジアにおける先進的な国際会議や展示会の開催場所としてのシンガポールの地位をより強固なものにすること。
- ②「Your Singapore」のキャンペーンのもと、アジアを先導する観光地として個性的な体験ができるシンガポールを発展させること。
- ③教育・医療・金融のサービス分野において、質の良いサービスを提供できるシンガポールを確立すること。

## シンガポールの主なMICE施設

- ① マリーナベイ・サンズ
- ② シンガポール・エキスポ
- ③ サンテック・コンベンションセンター
- ④ ラッフルズ・シティコンベンションセンター

## 2012年に来訪者が最も訪れた観光名所

- (有料施設)・マリーナベイ・サンズ スカイパーク
- ・ ナイトサファリ
  - ・ ワールドリゾートセンター
  - ・ ユニバーサル・スタジオ・シンガポール
- (無料施設)・チャイナタウン
- ・ リトルインディア
  - ・ マリーナベイ
  - ・ オーチャードロード

シンガポールの優位性は、東南アジアの中心という地理、緑豊かな都市環境、交通インフラ、英語の普及、治安の良さ等が挙げられるが、まだまだ課題も残っている。

国土の狭さ、歴史的建造物等の観光資源に乏しい、高い人件費、不動産価格等が今後の課題である。

## 《海外における統合型リゾート（カジノ）に関する動き》

### 【概要】

- ・カジノは、日本では刑法で禁止されているが、世界では120か国を超える国々で合法化されており、観光振興、地域活性化、雇用創出、税収増大等に寄与。
- ・近年、アジア地域では、ラスベガス資本を中心とした大型カジノ・エンターテインメント施設の建設が進行。
- ・シンガポールでは、観光振興を目的に2005年にカジノを合法化。2010年にターゲットが異なる二つの統合型リゾート（IR）がオープン。
- ・マカオでは、2002年にカジノ市場への外貨参入を認め、2006年にはカジノの総収益がラスベガスを抜いて世界一に。

## 《シンガポールにおける統合型リゾートについて》

### 【マリーナベイ・サンズ】

三大カジノ市場すべてに立地する唯一の企業。

世界で最も成功した統合型リゾート。シンガポールの新たな象徴MICEビジネスを拡大し、会議→食事（レストラン）→カジノという一連の流れを作ることで、カジノに人を呼び寄せる。

ゲーミング（カジノ）の実質使用面積は施設全体の3%未満であり、収益の80%はカジノである。

MICEと観光客の時期は重なることがない。

### MICE施設

面積：120,000 m<sup>2</sup>（アジア最大のボールルーム）

展示ブース：2,000小間が設置可能な展示場

会議室：250室

収容人数：45,000人

開業以来、それまでシンガポールでの開催がなかった展示会を40件誘致したことで知られている。

### サンズホテル

客室：2,600室

客室稼働率：99%

ショッピングモールの店舗数：約300店

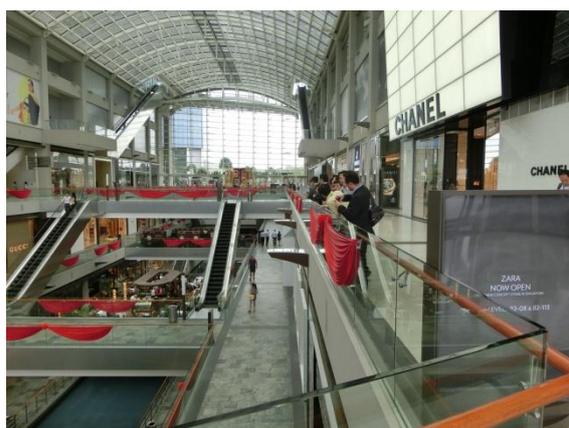
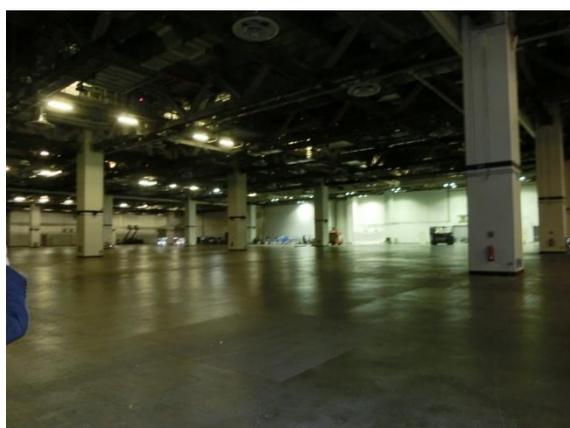
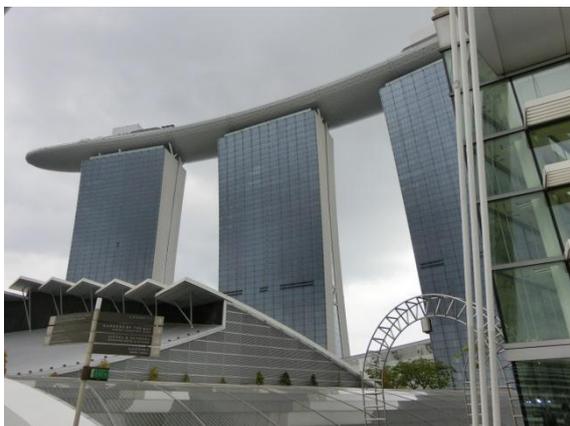
## カジノ

入場税制度が設けられており、シンガポール市民及び永住者から 2 種類の入場税を徴収している。

1 日 24 時間パスが 100 シンガポールドル、または年間パスが 2,000 シンガポールドル。頻繁すぎる訪問を抑制し、責任あるゲーミングを推奨している。外国人は入場税が免除となっている。22~23%が日本人観光客。ターゲットはビジネス客やコンベンション客。

説明を聴取する中で、日本に統合型リゾートを設置するなら、「大阪が有力である。」とのこと

大阪には、関西国際空港がありアクセスも良く、大阪に隣接した府県には観光施設がたくさんあるという理由だった。



### 【リゾート・ワールド・セントーサ】

主要施設として「ユニバーサル・スタジオ・シンガポール」「6つのテーマのホテル」「マリンライフ・パーク」「カジノ」が併設されている。

着工わずか34カ月で開業され、2012年開設から約5,400万人が来場している。

ターゲットは、主に家族・レジャー客を中心としている。

運営するために約70%の人が現地採用であり、雇用対策にも取り組んでいる。

セントーサ島の視察の中でも、海洋水族館のポテンシャルの高さを感じた。

説明を聴取する中で、大阪に統合型リゾートを建設するにあたり、約5,000億円の投資が必要。また、大阪の企業と連携をとることが重要不可欠であるとのことだった。

大阪でも「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」や「海遊館」といった施設を使い、今後、大阪夢洲にも統合型リゾート（IR）を誘致するべきだと強く感じた。

まだまだ、関西国際空港からの交通アクセスの課題もあるが、大阪の発展のためにも、今後、大阪市会で議論する必要があると感じた。



二つの施設（マリーナベイ・サンズ、リゾート・ワールド・セントーサ）のカジノについては、ギャンブル依存症や社会的セーフガードに関して、入場廃止制度を導入し、家族から申告があれば、入場制限がかけられ、官民の連携がしっかりとられていると感じた。

## 《教育》

### 【学校教育の特徴】

#### 二言語主義

- ・英語＝国際貿易による国家発展のための英語能力、共通言語の必要性
- ・各民族の母国語＝各民族の文化の継承・アイデンティティの尊重

#### 能力主義

- ・試験による能力別の振り分け  
＝初等教育4年生、初等学校卒業時、中等学校卒業時などの各段階

### 【教育体系】

- ・初等教育 6年間
- ・中等教育 4～5年間
- ・大学準備教育 2～3年間
- ・専門教育 3年間
- ・技能教育研修所 1～2年間
- ・大学 3～4年間

### 【教育行政組織】

教育省（教育制度全般を管理・管轄）

#### 教育の理念

- ・国の未来を担う子どもたちを育てることにより国を形成すること
- ・バランスのとれた十分な教育の機会を提供し、子どもたちの可能性を開発していくこと。
- ・子どもたちを家族・社会及び国に対する責任を意識する国民に育てていくこと。

### 【教育予算の推移】

シンガポールの歳出予算に占める教育省管轄の歳出額の割合は、概ね 20%前後で推移している。

2011年には、歳出額全体の 23.2%となる 109 億 1053 万シンガポールドルを計上し、国防省管轄の歳出額（120 億 7500 万シンガポールドルで全体の 25.6%を占める）に次ぐ規模となっている。

## 【ナンヤン女子中高一貫校・キャンベラ小学校】

シンガポール教育省の取り組みが先進的なことで有名だが、これを目の当たりにして驚かされることばかりだった。

シンガポールでは1980年代から国家主導によるICT戦略を立案・推進し、様々な取り組みを行ってきた。

1997年に教育省が21世紀に活躍できる人材を育成することを目的に、マスタープランを策定し、2008年にはICTツールを利用した学習を行う学校教育「フューチャースクール」が整備されている。

今回視察に訪れた二校のうち、「キャンベラ小学校」が「フューチャースクール」に指定されている学校である。

今回訪れた二校とも、生徒一人ひとりがタブレット端末を教科書の代替機能だけでなく、双方向のコミュニケーションツールとして活用している。



ナンヤン女子中高一貫校の外観



生徒がタブレット端末を使う様子



生徒がタブレット端末を使用し  
て発表している様子



児童がタブレット端末を使った  
授業を受けている様子



児童がタブレット端末を使う様子

なぜパソコンではなくタブレット端末を使っているのか。

- ・バッテリー、機器の重さやデータ処理のスピード等
- ・個人的にフィードバックもできる。
- ・常に新しいものを教育現場に取り入れる

キャンベラ小学校では、タブレット端末を 1 年生から使用し、ICTの環境を学ばせている。

保護者が理解したうえで、2年生になった時に初めてタブレット端末を購入する。低所得家庭においても国が補助をしている。

また、幼少時から物を大事にすることも学ばせる。



児童たちは保護者にタブレット端末を購入してもらったときに、このカードによって大事に使用することを宣誓する。

## 《港 湾》

### 【シンガポール港】

世界トップクラスのサービスを提供するシンガポール港は、中国の上海に次ぐ貨物取扱量を誇る港。

大型船舶が停泊可能な大深水バースや大規模なコンテナクレーンが整備されており、膨大な貨物量を取り扱うことが可能なハブ港となっており、世界最大の港に位置付けられている。

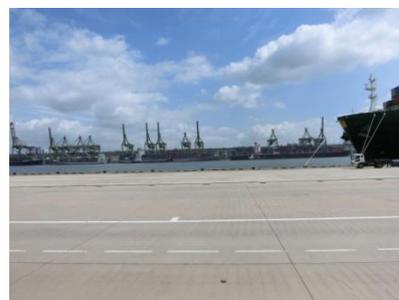
港湾事業はシンガポールの主要産業であり、国際的なハブ港となったことで、シンガポールを経済大国に成長させた。

港湾の運営は、P S A コーポレーションが行っており、質の高いサービスの提供を行っている。



荷役の取扱いも I T を活用し、最先端のオペレーションシステムで集中制御されている。

現在も新しい埋め立てを進めている最中で、将来的には全自動化（無人物流システム）にするための建築が行われている。



こうしたシンガポールの港湾の先進技術を目の当たりにし、水都大阪でも、大阪市だけでなく、府とも連携して世界的に評価の高い技術を取り入れていくべきだと強く感じた。

## 《まとめ》

今回、大阪市議員海外視察団の一員としてシンガポール共和国に視察に行かせていただき、着陸前の飛行機内からシンガポール港を眺めると、まず私の目に飛び込んできたのは、港に停泊している船舶の多さだった。

また、空港の広さ、観光客の多さ（世界で4番目）、観光バスの多さ、全てに圧倒され、どれをとっても大阪以上のものだった。

議員になる以前、私は自動車会社に勤務しており、モータースポーツにも大変興味があり、2008年9月に市街地を利用して、F1初のナイトレースが開催されている公道を見て、道路の整備が進んでいると実感した。

また、シンガポールは水辺を活用した飲食店が多い。

似たようなロケーションが多い水都大阪にとって、模倣できることがたくさんあるのではないかと感じた。